midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

10月号の１枚：会の活動を詠んだ詩吟の色紙をいただいて

［巻頭言］ 森を守るために生命を掛ける人もいる

違法伐採団と銃撃戦で森を守るブラジル人

現在のように経済が発展した元は,1733年に英国のジョン・ケイと言う人が織物を合理的に織りたいと思って人力を使わず、横糸を素早く通す工夫をした事に始まるそうだ。それが蒸気機関になり、化石燃料になり、電力になり、悪評の原子力へと産業振興技術が急激に発展した。

結果、産業革命後、今に至る「経済至上主義」に繋がり、自分の欲望を満たす手法の味を知った人々が飽くなき金儲けに走った。人類歴史来、全ての争いの根底は、欲と欲の衝突による自我（貪欲）を満足できない対手に対する瞋恚（怒り）で、そうなるのは人間が愚昧（愚かで道理に暗い）であるからだと釈迦は説いている。

今、地球の森林減少は10秒ごとに東京ドーム1個分だそうだ。森林減少は主に、南米ブラジル、東南アジア、アフリカ南部での違法伐採・盗伐で森林減少は、年間800万haにも及んでいる。過日、ある大学の講義で森林破壊の進むブラジルから違法伐採の33%が中国に送られていると言う。

昨年、国連から森林を守るForest Hero、6人が表彰された。違法伐採団と銃撃戦で森を守るブラジル人にパウロ・アダリオさんがその一人である。森林破壊の進む国で何故、そんなことが起こるのか。金に目の眩んだ黒幕がいるに違いない。当会も、森林を守るために頑張ってはいるが、アダリオさんのように命を懸けるところまでには行っていない。自分を含めてアダリオさんの様な覚悟が求められている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.10

10月 7日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
10月21日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

9月2日（第一日曜日）

今回の小原定例活動にはForestNova☆の学生が麻布大学から7名、千葉大学から1名の計8名が参加しました。

入山しての活動は、自然が豊富な中を目一杯体を動かして活動できるので、参加者一同が非常に楽しみにしていました。しかし、この日は朝から曇り空で、降水の可能性が高かったので森での活動は中止となりました。

その代わりに、駅のすぐそばの公民館をお借りし、緑のダムの川田さんによる勉強会と、屋根がある場所での巨大ベンチの補修を行いました。

勉強会は、主に『さがみはら森林ビジョン』、『緑のダム15年間活動報告小冊子』、『これからの活動計画』という三点について教えていただきました。

さがみはら森林ビジョンとは、相模原市が森林の未来を長期的な目線で見据え、市民全体で森林保全体制を支えていくという目的で策定されたものです。川田さんからは、その基本方針としての、『知る』アプローチ、『使う』アプローチについて詳しく教えていただきました。森林とその近くにいる人に対してのアプローチがたくさんある中で、学生としてできること、産業としてやらなければいけないこと等、普段の学生生活では考えもつかないところまで、詳しく学ぶことができました。また、これからの活動計画として、現在の整備を終えたあと、どのような活動、場所へ移っていくかを教えていただきました。いよいよ入山での経路整備を終え、次の山へ移っていくのだと思うと、少し寂しさを感じてしまいます。

巨大ベンチの補修作業では、前回作業を行った際に1本残っていた丸太にグラインダーをかけ、次回以降クリアコーティングをし、組み立てを行います。設置場所は、小原の郷の屋根がある場所を予定しています。

雨が降り、森林整備は行えませんでしたが、それを補って余りある程知識を得ることが出来ました。今回の勉強会では、現場でしか知ることができない、という言葉に甘えて、知識や情報を得る努力を怠ってはいけないと、強く反省しました。

森のために行動していくには、正しい知識を得て、それを実際の活動の中で活かし、反省をしていかなければならないと感じました。

今日学んだことを、これからの活動の中にしっかりと取り入れ、よりよい森づくりができるように努力していきます。

淺野　雅樹（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

9月16日（第三日曜日）

今月の定例活動は本会の発足１５周年の記念日だ。「急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと…」の精神。その地道で粘り強い活動の蓄積が今日を支えている。設立後数年にして解散してしまうNPO団体が多い中、よくぞここまで。それに合わせたように今日は嬉しいことが目白押し。フォレスト・ノバのほやほやOGである神宮理沙さんの参加を初め、高井戸中の「コカコーラ環境教育賞」優秀賞受賞（普段の努力の賜物！）、本会にも「神奈川力大賞」なるものが授与されたと、ノバの吉崎さんから報告があった。これは環境保全活動に携わるNPO法人に与えられるものだとのこと。

極めつけはお昼休みのサプライズ。井伊会員が得意の詩吟を披露してくれたのだが、その題名は何と「石村黄仁翁を讃える」。「容貌柔和にして仁徳深し信条鉄石、値千金……」。「翁」はちょっと気の毒な気もしないではないが、これまで１５年、本会の精神的支柱ともいえる代表理事を吟じた井伊会員、そして参加者全員に石村さんは感謝感激。満場の拍手に迎えられ、すず子夫人はちょっと照れくさそう。

さて、いくつかの班に分かれての作業はいつものこと。お花畑班は前回、前々回に引き続き草とりと生垣の補修。 これには前述の井伊会員を含めた都立戸山高OBの新戦力が加わったことが大きい。

OBといっても神宮さんのようにほやほやという訳にはいかないが、気持ちは若い。おかげで着々と作業は進行中。

高井戸中学、望星高校は元・日大教授の桜井先生の指導のもと「望星の森」のトチノキの枝打ちを行う予定であったが、昼前の予期せぬ激しい雨のため、やむなく次回まわしに。活動は午前で中止かとの心配はあったものの、サプライズのあったお昼からはお日様がにっこりと顔を出してくれた。おかげで各班の作業も無事完了。大空も本会の記念日を祝ってくれたのかもしれない。

内野　郁夫（本会、理事）

左上：生け垣づくり
左下：嵐山のクリ

右上：径路についての打合せ
右下：桜井先生から指導

[報告１]
湘南の森活動報告

８月１０日（金）の作業は三地区の植樹苗の保全と周囲の草刈り、さらに樹木調査のチェックを行いました。 樹木調査は前回までに144本の樹木を調査し、各樹木にシュロ縄で整理番号を記入した木札を 取り付け済みです。今回はもう一度それらをチェックし、調査漏れが無いかを確かめました。 午後からは浅間山北斜面の夏草と蔦類を大鎌で刈り取りました。

８月２５日（金）は、いつもの三班に分かれて定例作業の草刈りと、アジサイの剪定作業を行いました。夏草は日照り続きにもかかわらず、旺盛な生命力で繁茂、こちらは樹木の味方となって 成長の阻害とならないように、草を刈ります。刈り過ぎてもいけないし、刈らないと 樹木が負けてしまうし、このあたりの手加減が難しいのです。 午後からは、田中（文）さんの家の庭で栽培してもらったタデアイの葉を使って、 叩き染めを体験、木綿のハンカチに転写された藍の微妙な色合いを楽しみました。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
ForestNova活動報告

夏も後半に差し掛かった8月19日、この日は私たちForest Nova☆にとって、事前準備に約３か月間の時間を費やした環境教育の企画を実施した日になります。

相模原市立環境情報センター主催の下で行った今回のイベントでは、「自然と自分の繋がりを考えてもらい、自然を身近なものとしてふれあってもらう」ということを目的とし、「森の中のつながりと水」について子どもたちに伝えるということになりました。

ということで、５月の下旬から動き始めた今回の環境教育ではForest Nova☆の中で午前の企画と午後の企画で分かれて、行うことになりました。午前の企画では子どもたちに嵐山の中での体験を通して、自然の

ことを学んでもらう企画を主に１年生の２人が考え、午後の企画ではForest Nova☆が間伐した材を使う企画を考えました。

午前中は、初めて１年生が携わった企画として、土と水についての勉強を行いました。まず、子どもたちと一緒に森に入って土を採取し、そこにいた生き物が、落ち葉や枯れ枝を食べて糞を出すことや、土の中で生活していて土に孔隙をつくることを観察してもらいました。次に、ForestNova☆特製の罠を仕掛けて捉えておいた、生き物の死骸を食べるシデムシの観察、説明を行いました。

そして、もう一つの午前の企画として土の浄水力・保水力の実験を行いました。これは、ペットボトルの中に実際に土の構造を作って、色の着いた水を流して見せたり、対照実験としていろいろなところにある土と嵐山の土に水を流すという形で行いました。

午後の企画では子どもたちと一緒に木材を使って自分でオリジナルのオブジェを創作する木工の企画を行いました。おのおの自分が感じたインスピレーションをForest Nova☆の間伐した材や植物の種などでつくるということで、作成には苦労していましたが、最後の発表では、子どもたちもすごく楽しそうに自分がつくった作品を発表していたので、納得できる作品が出来たと思います。

一連の企画を終えて、改めて自然のなかの多様な役割や、目には見えない自分の暮らしとの繋がり、またそれを言葉や身振りで実際に子どもたちに伝えることの難しさを再確認できました。さらに自分も一年生として初めてこうした大きい企画を持つことになり、改めてForest Nova☆のメンバーとの距離が近づけたんじゃないかなぁと思います。また企画を進めていく過程でミーティングで意見を引き出す難しさ・意見を貰えた時の嬉しさ、担当間だけで話し合いそれを全員に共有することの重要性を知りました。

また今年で今回のような環境教育は終わりということではなく、秋には大学の環境サークルを対象とした「森でやらない環境教育」という企画も現在Forest Nova☆で思案中です。

釜谷　優太（Forest Nova）

[報告３]
東京学芸大環境教育リーダー養成講座の実習受け入れを行いました。

今回の講座では午前は本会スタッフから森の概要について、午後は高井戸中学の生徒と下草刈りに参加してもらいました。参加した学生の感想をご紹介します。

環境教育リーダー養成講座第1講として、私たちは神奈川県若柳嵐山の森で森林保全ボランティアに参加させていただきました。当日の活動として、午前中は嵐山の森を散策し、周囲の土地の名前の由来やその森の植生についてのお話を伺いました。なぜモミの木が尾根沿いのやせた土地に生えるのか、色鮮やかなガマズミの果実はどんな味がするのか、終始興味が尽きませんでした。

午後の活動は、主として道路沿いの下草刈りに挑戦しました。その活動では同じプログラムに参加している中学生と協力、また教えられながら森の地面に生い茂る笹などを刈っていきました。主催されているNPO法人「緑のダム北相模」の方のお話を聞く中で、「人の手入れの行き届いた健康な森は、そこにいるだけでとても気持ちの良いものです。」ということを繰り返されていました。適度な間伐や枝打ち、まめな下草刈りなどによって管理された森は、風通しがよく、光にあふれ、なるほどとても気持ちのいいものでした。今回、私たちは微力ながらも森林保全の活動のお手伝いをさせていただいたのですが、また機会があればぜひ参加したいと思いました。

高栄　晋平（東京学芸大学）

今まで、いくつかの環境教育プログラム等には参加してきたが、林業は初体験だった。里山を守ること、里山と共存することで、生態系が維持されてきた事実は学んできたが、森林の景観が生物多様性にこんなにも大きく影響するということは考えていなかった。昔の環境教育では、「森林を傷つけないで」と訴えることが多かったが、それは必ずしも正しくないということ、計画的に伐採し、景観を保つことで生物多様性が守られる自然も多いのだということをもっと伝える必要があると感じた。

中学生の皆さんと一緒に実習をやらせていただいて、中学生が自分のイメージよりもずっとしっかりなさっていて驚いた。事前講習で「自分たちで計画を立ててやっている」ということをお聞きした。自身で考えて実行することで、そしてその効果をその目で見て実感することで人は成長するのだということだろう。

森は人を成長させる。というが、そのことが実感できた実習であった。協力してくださった皆様、ありがとうございました。

大江　真央
（東京学芸大学）

[事務局からのお知らせ、お願い]

さがみはら環境まつり、写真でご紹介

本会では、相模原市で９月３０日に行われた環境まつりに参加しました。今月はその様子を写真でご紹介します。

ForestNovaのブースでは、木工体験を、高井戸中学は「はやぶさ」と打ち上げに使ったM-Vロケットを制作しました。詳細は来月号で報告します。

会員コーナー

●本会のNPO法人登録10周年を記念して会員のコーナーを開設しました。
皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●9月より新年度を迎えます。新規会員募集と継続会員募集を開始します。
お振込みは極力ゆうちょ銀行からお願いいたします。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

●来月号から会費を納入いただいた方のお名前をこのスペースにてご紹介してはどうかと経営運営会議で検討しています。
お名前の掲載を辞退される方、またニックネーム等での掲載も可能です。
会員コーナー専用メールアドレスまでご一報ください。

掲載例：正会員、石村黄仁（東京都）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版